



西之表

市政の窓

第374号／平成5年11月1日発行■発行／鹿児島県西之表市役所■編集／総務課秘書広報係 ☎09972②-1111 FAX②-0295



“夢多き交流に”
鉄砲伝来450周年を記念して姉妹盟約

鉄砲伝来450周年を記念して本市とヴィラ・ド・ビスポ市（ポルトガル共和国）が10月1日、姉妹都市盟約を結んだ。その前日の9月30日、種子島開発総合センターを訪問したロドリゲス市長ら一行13人を迎えた市内の園児と児童。ジョルジ君（市長の息子さん・9歳）と交わす笑顔に“末永い、夢多き交流”を予感する。

聞こえますか 450年前の銃声か



'93鉄砲伝来450周年 —種子島—

11月の行事予定

- | | | |
|--------|-----------------------|------------------|
| 3～7日 | 第22回市民文化祭 | (市民会館) |
| 14日(日) | 第23回熊毛地区駅伝競走大会 | (西之表市→南種子町) |
| 16日(火) | さわやかシルバースポーツ大会 | |
| | (午前9時～市民体育館・市営グラウンド) | |
| 18日(木) | 小・中学校合同音楽祭 | (午前9時～市民会館) |
| 21日(日) | 種子島相撲大会 | (午前10時～南種子町営相撲場) |
| 24日(水) | 中学校英語弁論暗唱大会 | (午前9時～市民会館) |
| 26日(金) | 母親セミナー | (午前9時～市民会館) |
| 27日(土) | 移動市民文化祭 | (午後7時～安納小体育館) |
| 28日(日) | 第22回市内一周駅伝競走大会 | (午前9時半～Bコース) |
| | (鴻峰小→立山→安城→住吉→榕城→体育館) | |

1993年 11月号

多彩に鉄砲伝来450周年祝賀

ロドリゲス市長を迎え姉妹都市盟約調印式も

日本とヨーロッパの初めての出会いとなった一五四三年の鉄砲伝来。それからちょうど四百五十年目にあたる今年、種子島をはじめ、ポルトガルとゆかりのある徳島、大分、鹿児島、長崎など日本各地で、日本ポルトガル友好四百五十周年を祝う数々の行事が行われました。

鉄砲伝来で「日本ポルトガル友好の初地」とされる私たちの種子島でもポルトガル共和国の関係

者多数をお迎えして記念行事を実施しました。先

ず、十月一日、本市とポルトガル共和国のヴィラ・ド・ビスポ市が姉妹都市盟約を締結。二日と三日には、鉄砲伝来四百五十周年記念式典、文化講演会、種子島鉄砲まつり、鉄砲村にぎわいバザール（物産展）、さだまさしコンサートなどを開催し、各会場とも島民多数の参加のもとで盛大に四百五十周年を祝いました。

“おとぎの国”と縁結び

ヴィラ・ド・ビスポ市と姉妹盟約

十月一日、市内のホテルで本市とヴィラ・ド・ビスポ市の姉妹都市盟約

鉄砲伝来

天文十二年（一五四三）八月二十五日の早朝、種子島の南端、西ノ村浦（南種子町・門倉岬）に一隻の大きな船（明国船）が漂着。船には明国人、琉球人など百数十人が乗り組んでおり、その中に今まで見たこともない容貌の男たちが三人。船宰で五峰と名乗る中国人が島の漢学者西村織部之丞に筆談で「彼らはポルトガルの商人」と説明。

第十四代島主の種子島時堯公（当時十六歳）は、船を二日ばかりで赤尾木湾（今の西之表港）に曳航し、台風で傷んだ船を修繕。慈遠寺の宿坊での五カ月にも及んだ滞在期間中、ポルトガル人や明国人は、それぞれの文化を島民に伝えた。ポルトガル人は焼パン、明国人は蒸パン、その他、常備薬としてのカンフル（樟脳）とか止血剤としての煙草、アラブ系の馬、それに中央支点式の鉄など。

ポルトガル人が伝えたものの中で最たるものが鉄砲だった。ポルトガル人が披露した鉄砲の威力におどろいた時堯公は金二千両で二挺を購入。さっそく島の刃鍛冶を総動員して鉄砲作りを始めた。

困難の連続の末、翌年、ようやく国産銃が完成。製銃の技術は、紀州根来寺の津田監物や、堺の商人、橘屋又三郎によって中央に伝わり、たちまちの間に全国に広まった。このかげに、火薬製法を習得した篠川小四郎や八板金兵衛の娘・若狭の働きも大きかったと伝えられている。

西之表市、ヴィラ・ド・ビスポ市
姉妹都市盟約調印式
GEMINAÇÃO DE MUNICÍPIOS CERIMÔNIA DE ASSINATURA



ヴィラ・ド・ビスポ市と本市の関係者多数が臨席して進められた両市の姉妹都市盟約調印式（写真は左からコレイア行政課長、マレイロス議長、ロドリゲス市長、榎本市長、中園副議長）

調印式が行われました。

ヴィラ・ド・ビスポ市は、ポルトガル共和国の南部にある人口六千人の農業と漁業、観光のまち。十五、六世紀の大航海時代を代表するエンリケ航海王子が天文・海洋の専門学者を集め、航海学校を開設し、インド航路開拓の夢を追った地であり、ヨーロッパ世界拡大の出発地点であるサグレスなど歴史的に貴重な史跡、史実を多数有すること世界に知られています。また、昨年二月、姉妹都市盟約仮調印のため訪問した榎本修市長が「おとぎの国」と称した「緑の丘に赤い屋根、白い壁の家並みが美しい田園風景」となりあわせに、大西洋の荒波に洗われた七十五mの絶壁が続く海岸線を併せもつという観光資源豊かな地域でもあります。

調印式には、ヴィラ・ド・ビスポ市のロドリゲス市長をはじめとする一行十三人と本市の市議会議員らが参列。

まず、姉妹都市盟約宣誓文が日葡両国語で発表され、両市の市長と議長（本市は中園宗利副議長）が署名。両市長が固い握手を交したあと、なごやかな雰囲気の中で、記念品と市旗を交換し、友情の輪を広め、幅広い分野の交流を約束。また、両市の発展と日本ポルトガルの親善に貢献することを誓いました。



▲市内の園児・児童に出迎えられ、市役所庁舎に向かうヴィラ・ド・ビスポ市の皆さん。

◀民間使節団としてポルトガルを訪問した市民らが主催した歓迎のタベ



▲市文化協会あげての大舞台となつた鉄砲伝来物語「炎史」公演

▼在日ポルトガル大使館のカルヴァーリョ文化担当官に手渡される大統領メッセージ



▲ポルトガル大統領のメッセージを持ち、門倉岬をスタート。伝令リレーには3市町181人が参加

ポルトガル共和国マリオ・ソアレス大統領のメッセージを伝達リレーするスポーツイベントが十月二日行われました。

南蛮船（明国船）漂着の伝令に早馬が走ったとの伝えから、門倉岬から四百五十周年式典会場の市民体育館までの五十六km、五十八区間で実施したものです。

午前九時、門倉岬では選手を代表して南種子町の砂坂英明さん（20歳）が「鉄砲伝来の意義と先人の遺徳をたたえ、リレーします」と宣誓。大統領メッセージの入った飛脚箱と木製の火縄銃を手にしたグループ3人が種子島火縄銃南部鉄砲隊（名越茂久会長、八

キャスト100人以上の大舞台

鉄砲伝来から国産銃を生み出すまでの刃鍛冶八板金兵衛清定の苦難を描いた演劇「鉄砲伝来物語『炎史』」（市文化協会主催）が十月一日、市民会館で上演されました。

脚本、演出は西金勇さん（東町、63歳）出演は熊毛アトロ（河東原会長、15人）の他、市民合唱団コールわかさ、あかおぎ民謡研究会などの皆さんも歌や踊りで登場するというキャスト百人

大統領メッセージをリレー

以上の市文化協会あげての大舞台。日本に一大転機をもたらした日本最初の鉄砲づくり物語を史実と創作の両面からドラマチックに仕上げた舞台を集めた観衆六百人はたんのう。「新しいスタイルの演出に驚き、新鮮さを感じながら、家族で楽しませていただきました。今後、市民劇場に育つてくれたらうれしいのですが」など絶賛の声が数多く聞かれました。

鉄砲伝来物語「炎史」公演

種子島を縦走56km 181人

人の号砲で出発。

南種子町十七区間を五十一人、中種子町二十七区間を六十人の各町青年男女が、また西之表市十四区間を市内児童生徒が十分間に二kmのスピードでリレーしました。

午後二時、最終ランナーとなった沖田ゆかりさん（榕城中三年）・村田智秀くん（同三年）ら五人が式典会場に到着。榕城中学校吹奏楽部の演奏と種子島火縄銃保存会の祝砲で迎えられた大統領メッセージは記念式典ステージで在日ポルトガル大使館のカルヴァーリョ文化担当官によって読み上げられ、伝達を成し遂げたランナーに会場から大きな拍手が送られました。



▲種子島開発総合センターのポルトガルコーナーと、鉄砲伝来の地「門倉岬」を訪れたヴィラ・ド・ビスポ市の皆さん





◀ 少年少女合唱団（西・中）とコーラスグループ（3市町）によるさわやかな歌声で開会した記念式典

歴史的出合いを祝う

サグレス号寄港、姉妹都市盟約、ポルトガル大統領ご来島など鉄砲伝来四百五十周年を記念する数々の行事のメインとなる記念式典（主催：種子島三市町連絡協議会）が十月二日、市民体育館で盛大に開催されました。

式典にはポルトガル大使館のカルヴァーリョ文化担当官をはじめウィラ・ド・ビスポ市のロドリゲス市長、マレイロス市議会議長、日ポ友好450周年記念行事実行委員会の八尋俊邦委員長、二階堂進衆議院議員のほか、県議会議員、国土庁、鹿児島県、姉妹・友好都市の皆さんら多くの方々が臨席。

式典は、少年少女合唱団や種子島三町のコーラスグループ（コールわかさ、コールなかなたね、さんだんか）のさわやかな歌声、そして、榕城小学校鉄砲太鼓隊、種子島鉄砲太鼓保存会による勇壮な演奏で開幕。日ポ両国の国歌演奏につづいて、門倉岬から伝令リレーされてきたポルトガル大統領のメッセイジがカルヴァーリョ、文化担当官によって読み上げられ、「日本とポルトガルの歴史的な出合いを種子島の方々と共に記念できることを光栄に思います」との内容に会場から大きな拍手が湧き起こりました。

式辞で榎本修会長は「古き良きものを

鉄砲伝来450周年記念式典

大事に誇りとしながら、新しい知識をもとめて研鑽する精神は、夢多きふるさとの創造につながる。四百五十年前、私達の先祖が果たした遺徳を偲び、たたえ、島民一人ひとりが先祖に負けない気概を持つことが大切。記念行事を契機に、鉄砲伝来の地種子島が日本ポルトガル友好の地として新たに旅立つことをうれしく思います。」とあいさつしました。

つづいて、四百五十周年を記念して表彰が行われ、日高部画伯や平山武章さんら個人（五）、団体（五）に表彰状と記念品が贈られました。

なお、会場では、種子島広場の建設計画を持つヴィラ・ド・ビスポ市に対し、種子島三市町から記念モノコメントの贈呈も行われ、永永い交流を誓い合いました。

《表彰を受けた皆さん：敬称略》

○日高 部（中種子町出身、パリ在住洋画家）日本ポルトガル交流展開催）

○平山武章（中目、郷土史家）鉄砲伝来四百二十周年の昭和三十七年に鉄砲まつりを立案企画。鉄砲伝来に関する著書多数）

○磯田幸雄（神奈川県）鉄砲伝来四百五十周年シンボルマーク制作者）

○高橋善雄（岩手県）キャッチフレーズ考案者）

▶ 記念式典のオープニングでは、榕城小学校鉄砲太鼓隊も見事なバチさばきを披露。

◀ 式典会場には、種子島とヴィラ・ド・ビスポ市の児童・生徒らの作品と大航海時代の資料が所せましと展示された。



◀ 式典で表彰を受ける皆さん





山 鼓 太



種子島火縄銃試射



南蛮行列



花火大会



種子島 大いに飛躍する種子島 農村楽隊
鉄砲村にぎわいバザール



種子島鉄砲太鼓

- 株式会社どれみ（鹿児島市）キャラクタール人形制作者）
- 石堂恵子（鹿児島市）キャラクタール人形愛称、「火縄銃兵衛」命名者）
- 堺火縄銃保存会（大阪府堺市）

30年後は君たちが宇宙へ

日本人初のスペースシャトル搭乗員として昨年九月に宇宙飛行をした毛利衛さんが十月二日、市民体育館で記念公演を行い、会場いっぱいの子供たちを前に、宇宙の魅力や宇宙実験の目的などをわかりやすく紹介しました。

毛利さんは「四百五十年前に鉄砲が伝わり、今、宇宙に向ってロケットが飛び立つ種子島はいつも時代の最先端を行くハイテクの島」と語った後、ビデオとスライドを使いながら①シャトルは二カ月に一回のペースで打ち上げられており、日本の参加は五十回目にして実現、②宇宙の無重力の世界では地球上では考えられない夢の材料が作れる、③地球の上空三百kmを時速三万kmで回

- 国友鉄砲研究会（滋賀県長浜市）
- 種子島火縄銃南部鉄砲隊（南種子町）名越茂久会長・八人）
- 種子島火縄銃保存会（西之表市）松浦賞会長・十三人）

毛利衛さん宇宙を語る

るシャトルからは一日に十六回の日の出が見られるなど、宇宙での体験や仕事を詳しく説明。興味深い話に会場の皆さんは熱心に聞き入っていました。

「宇宙はどこまで続いているの？」
「宇宙生活に必要なものは？」など子供たちの質問に丁寧に答えた毛利さんは「三十二年前、中学二年生の時、ガガーリンの宇宙飛行で宇宙にあこがれました」と少年時代を紹介し、「夢はいつか実現します。三十年後は種子島の皆さんが宇宙へ」と激励して一時間の講演を終わりました。

「はてしない夢への挑戦」と題した毛利さんの講演は、子供たちの一番人気があったのもかもしれません。

日ポ交流の架け橋に

日高部画伯（中種子町出身・62歳）の洋画による日本ポルトガル交流展が十月一日から一カ月間、種子島開発総合センターで開催されました。

画伯は、昭和四十六年に渡欧して以

日高部画伯が交流画展

来、パリを拠点に活躍され、五十一年ルサロン金賞、五十二年パリ国際絵画芸術祭ヘルギー王妃賞、五十六年ヨーロッパ芸術文化賞、六十年パリ市文化功労賞など数々の大賞を受賞。またこれまで数



▲◀日本ポルトガル交流画展は、日高部画伯、ロドリゲス市長、榎本市長のテープカットで開幕した



▲宇宙飛行士の毛利衛さんの講演は子供らの人気を呼んだ



▲“さだまさしアコースティックコンサート”には島内外のファン3000人が詰めかけた

第24回 鉄砲まつり



多くの作品を種子島に寄贈されています。

今回、鉄砲伝来四百五十周年を迎えるにあたり、ポルトガルと種子島の交流の一環としてリスボン市、ヴィラ・ド・ピスボ市、西之表市の三会場で開催を実施。

「種子島に生を受けた者として、これからの交流の糸口にもなればとの思いから計画しました。ポルトガル展では種子島の一般、児童生徒の絵画、

450周年祝賀ムード一色

第二十四回種子島鉄砲まつりが十月二日、三日の両日、市街地を中心に盛大に開催されました。

鉄砲伝来四百五十周年記念祭となつた今回は、本市と姉妹都市盟約を結んだポルトガルのヴィラ・ド・ピスボ市のロドリゲス市長をはじめとする一行十三人が参加。また、県外からは友好都市の堺市（大阪府）、長浜市（滋賀県）、県内では姉妹都市の大口市、菱刈町をはじめ多数の市や町の参加をいただき、観衆も例年以上と、大変な賑わいを見せました。

初日の前夜祭では、超満員でふくれあがった市民会館で一般、子供芸芸大会が行われ、西之表新港では花火大会とレーザーショー（市商工青年部主催）も開催され、光と音の演出に皆さん魅せられていました。

翌日の本祭りは、早朝より鉄砲まつり

書道、写真も展示し、多くの市民の参観を得て好評でした」と画伯。

十月一日のオープニングには関係者多数が参列して、榎本市長とロドリゲス市長、画伯の三名がテープカット。会場にはポルトガルの学童の絵も同時に展示され、連日、入館者の注目を集めていました。画伯のますますのご活躍をお祈りいたします。

第24回鉄砲まつり

振興会名誉会長の種子島時邦さん臨席のもとで、墓前祭、種子島時亮公銅像献花、八坂神社祭典が厳粛に行われたあと、お祭り広場で源太郎踊り（住吉）と種子島鉄砲太鼓などの郷土芸能が披露されました。

パレードは榕城中学校吹奏楽部を先頭に太鼓山、御神幸、山車、子供山と続き、フレッシユ種子島（畑山美加さんら三人）、エンゼル堺長浜キャンベーンガール、そして志布志町のミスポートタウンの皆さんがパレードに花を添えました。南蛮行列はわかさ姫（向井久美子さん、国上屋勤務）が乗った南蛮船が先導。市内幼稚園、保育園、小学校の園児・児童による鼓笛隊、そして、各種団体の手踊りが祭り気分を盛り上げました。

その他、西之表港内で港まつり（漁船パレード）、市内ホテルではお茶会がそれぞれ行われるなど、まちは鉄砲伝来四百五十周年祝賀ムード一色になりました。

市長
随想

（第42回）

素晴らしい

四季を通じて「まち」の表情は、

そこに住む人々の心を表す。

美しい心を持つ人々が住む「まち」は

美しい「まち」になる。

素晴らしい心のある人々の手で

はじめて素晴らしい「まち」が

築かれていく。

未来の西之表の「まち」は、

優しく純粋な子供たちの手で

創られていく。

全国離島振興協議会理事会に出張の折、山口市で見た山口市青年会議所が設置したもので、山口を西之表に書き替えてみた。素晴らしい詩だ。山口市の若者の豊かな情緒がひしひしと伝わってくる。本市にも山口市に負けない若者の息吹が有る。鉄砲伝来四百五十周年記念事業で、陰の力となった商工会青年部を中心とした若者の力だ。感謝の外ない。中学生のブラスバンド、幼児・小学生の鼓笛隊、中学生の踊り連、そして市民体育祭での保育所・幼稚園児の母と子のマスケゲーム、小学生の鉄砲太鼓、鼓笛隊、中学男子の集団演技「ヤンハ」、いずれも素晴らしく、感動の連続であった。私達一人ひとりの体には先祖の人情豊かな血が脈々が受け継がれている。これを誇りとし行動すれば素晴らしい「まち」づくりが出来ることを確信する。特に体育祭での中学生の集団演技「ヤンハ」は心強く、たのしく、なんとも言えないすがすがしい気分が沸き上がって来た。（榎本 修）

形之山は日本屈指の化石群

象の化石はパレオロクソゾン？

昭和六十二年八月、象の骨や豊富な魚類、貝類、植物の化石の出土で脚光を浴びた住吉の形之山化石群の発掘調査報告会が九月二十九日、種子島開発総合センターで行われました。

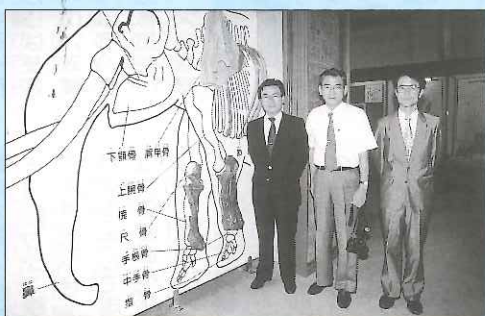
発掘調査研究にあたった鹿



形之山化石群のコーナーを埋める38種102点の化石
(種子島開発総合センター)

児島大学の大塚裕之教授や北九州市立自然史博物館の藪本美孝学芸員および鹿児島県立博物館の中村博志主任学芸主事ら三人は、同センターに新設された化石群展示コーナーを前に「形之山化石群は、採取された化石から推測すると南種子町の増田層と同じ七十（百万年前（更新前期）のものと思われる。この時代で、これだけの質と量が出て来たのは日本ではおそらく初めて。今回、特に保存状態のよい代表的なものとして展示した象の骨七点、甲殻類二種四点、魚類十七種四十三点、両生類二種十四点、貝類十五点、植物八種十九点の合計三十八種百二点だけでも、当時の環境を復元できるほどの内容です。このように一度に陳列することは普通は出来ません」と高く評価しました。一方、七つの骨が発見された象の種類については「パレオロクソゾン」の可能性が高い

▶化石群の発掘調査報告を行った（左から）中村、大塚、藪本の三氏。



ものの、判定に必要な頭骨や歯が含まれていないため、現在の資料では特定は難しいと報告しました。

「鉄砲伝来四百五十周年記念の年に展示できたことに意義を感じます」と語った大塚教授でしたが、あなたも、この充実したコーナーを一度ご覧になり、ふるさとの太古の世界をのぞいてみてはいかがでしょうか。

日本列島サイクリングひとり旅

種子島時隆さん3,000kmを走破



市民体育館前を門倉岬に向けひた走る種子島さん

大分大学工学部二年生（サイクリング部所属）の種子島時隆さん（兵庫県伊丹市生まれ、十九歳）が、このほど日本列島三千kmを約一か月かけて自転車で行った。八月二十七日、叔父（種子島時治さん、野首）のいる種子島も一気に走破しました。

日本縦断の一人旅は宗谷岬を七月二十二日にスタート。道路地図を頼りに時速十五km程のスピードで毎日約百二十kmを走り続け、八月二十四日に佐多岬に到着。八月二十七日には、種子島縦断に臨み市民体育館前で「北海道一週間、本州三週間、九州三日間、野宿がほとんどで、この間、後輪タイヤのパンクを五回自分で修理。トラックの運転手から一万円をもらったり。いろんな出会いがあり、思い出多い旅でした。苦しかったのは山越えの時ぐらい」と自己への挑戦をさらりと振り返る種子島さんでした。

太刀・脇差に息をのむ

種子島刀剣展



▶▲刀剣展には井元正流氏所蔵の脇差(鉤)種子島住国命(市指定文化財)Ⅱ写真Ⅱなどが出品された



種子島に伝わる名刀の数々を一堂に集めた種子島刀剣展が九月十六日から十月八日まで種子島開発総合センターで行われました。

刀剣展は、昭和五十九年以来九年ぶり、今回が二回目。種子島時邦氏、田上容正氏、井元正流氏ら七人が所蔵する太刀、脇差、短刀など二十二点が展示されたコーナーは空気がヒーンと張りつめ、思わず息をのむ入館者も。

市文化財保護審議会委員長で種子島開発総合センター運営委員でもある平山武章氏は「前回と同様の家宝名品を網羅し得たのは所有者のご高配の賜です。鉄砲伝来四百五十年に併せたセンターの企画も、たたら、製鉄、鍛冶と、弥生時代以降の種子島の技術面からの考察に大きく役立ったのではないだろうか」と出品者に感謝し、展示会の成果を語っていました。

応急手当の大切さ痛感

救急医療県民講座

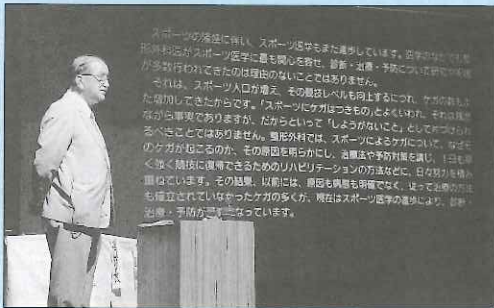
救急医療県民講座が九月十一日、市民会館で行われました。

当講座は救急医療週間にちなんで熊毛地区医師会(田上容正会長)が白坂健一郎医学博士(整形外科白坂病院院長)を講師に迎えて開催したものです。

「スポーツと傷害」と題した講演には、スポーツ指導にあたる地元関係者ら多数が集まり、熱心に聴講。

講座の終盤には、種子島実業高等学校生徒による「スポーツ傷害」の寸劇もあり、ユーモラスな演技に会場は沸きました。スポーツ振興とともに増加する課題をテーマにしただけに、傷害に応じた適切な応急手当の知識と技術の修得の必要性を皆さん痛感していました。

▶▲応急手当の方法について詳しく説明する白坂院長と寸劇をする種子島実業高生



奥尻島救援募金 2,110,695円

7月12日に発生した「北海道南西沖地震」に伴う大津波と火災等で死者・行方不明者212人、家屋被害約400戸の大災害となった奥尻島への義援金を募りましたところ、本市においては4,733件、2,110,695円(8月末現在)のご協力をいただきました。今回の募金活動は、全国離島振興協議会の呼びかけ(全国の離島229市町村を対象)に基づいて実施したもので、このたび同協議会より市民の皆様へお礼状が届きましたことをご報告いたします。皆様のご厚情に対しまして深く感謝申し上げます。

——(奥尻島救援募金取扱)市役所総務課——

交通事故発生状況

平成5年10月15日現在(対前年同月比)
※死者傷者とも発生場所での件数です。

区分	発生件数	死者	傷者
西之表市	58(+5)	0(-1)	66(+5)
中種子町	26(-15)	1(±0)	30(-15)
南種子町	19(+4)	0(-1)	24(+6)
計	103(-6)	1(-2)	120(-2)

炬火と「ヤンハ」に沸いた市民体育祭

鉄砲伝来450周年記念大会

伊関と国上に凱歌



炬火台に点火する脇田雄二選手（現刊）



団旗のもとで宣誓する河本幸男さん家族（国上）

第三十一回市民体育祭が十月十七日、市営グラウンドで市民多数の参加のもと、盛大に開催され、四種目で新記録が生まれ、総合の部では、伊関と国上がそれぞれブロック優勝を果たしました。

絶好のスポーツ日和で迎えた本大会では、開会式に初めて炬火が使用され、また、集団演技に「ヤンハ」が登場するなど新しい企画が市民の注目を集めました。

炬火のトーチ（炬火棒）は西町出身の反橋宗八郎さん（横浜在住）が市に贈ったもの



住吉中学校生徒が優雅に「源太郎踊り」を披露

ので、大会では脇田雄二くん（種子島実業高校三年）が炬火ランナーをつとめました。「ヤンハ」は甕島で踊り継がれている勇壮な「男おどり」の創作で榕城中学校男子三百



迫力ある演奏を会場に響かせた榕城小学校鉄砲太鼓隊

八人が力強く演技。いずれも鉄砲伝来四百五十周年記念大会にふさわしい、若さと躍動感あふれるものでした。競技は個人種目から始まり、各選手がフィールド、ト



優秀選手賞

脇田 雄二
（種子島実業高校3年）
■平成5年高校総体県大会走り幅跳び優勝



鎌田陽一郎さん
（59歳・小牧）
■市ソフトボール連盟審判長



鎌田 国政さん
（70歳、榕城中目）
■市弓道連盟会長



社会体育功労賞

吉田 末男さん
（70歳・西俣）
■市ゲートボール連盟審判長



榕城中学校（末吉辰郎校長）の体育祭で昨年から演技され始めた「ヤンハ」。
鮎川正昭体育主任らの指導による練習の成果は、市民体育祭で十分に発揮され、308人の
力強い演技は会場をうならせた。

総合の部成績表

◎躍進賞

Aブロック			Bブロック		
1位	伊関	96点	1位	国上	92点
2位	安納	92点	2位	下西	84点
3位	古田	76点	3位	現和	76点
4位	上西	75点	3位	◎榕城(上)	76点
5位	安城	55点	5位	榕城(下)	73点
6位	立山	54点	6位	住吉	57点
7位	◎中割	38点			

ラックで力と技を競いました
が、午前までの総合得点は各
地区わずかの差。午後からは
団体種目に強い地区が得点を
重ね、Aブロックでは伊関と
安納が飛び出し、団体採点競
技の六種目中、四種目で一位
になった伊関がブロック優勝
に輝きました。またBブロッ
クでは、今年から採点種目と
なった輪まわし競走などを手
固くおさえた国上が追いつが
る下西をふり切り優勝しまし
た。

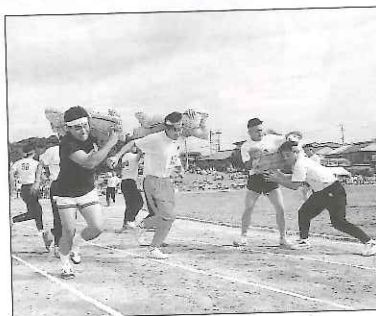
一方、記録の面では榕城上
方チームが、小学生四百メー
トルで一分の壁を破る59秒6
をマーク（これまでの記録1

分00秒4、国上、国上チー
ムもまた輪まわし競技で新記
録を達成しました。その他、
競技方法を変更して行われた
運俵リレー（1分45秒2、国
上）、むかで競争（3分27秒
6、伊関）の結果も新記録と
して認定されました。

なお、午後の競技の前には
下西小学校トランペット鼓隊
によるドリルや、榕城小学校
鉄砲太鼓隊の演奏、住吉中学
校からは「源太郎踊り」の披
露があり、さわやかで立派な
発表に大きな拍手が送られま
した。また、ひきつづき行わ
れた、市スポーツ連盟による
躍進体協では本市のスポーツ
の振興に貢献される吉田末男
さんら四人の方々に表彰状が
贈られました。



20kgのボンベを背負っていても、
あなどれない消防チーム（職域）



運俵リレーは今年から5kg軽

今年のジャンケン・チャンピオンは11回戦を
勝ち抜いた寺師奈緒子さん（榕小3年）。2位

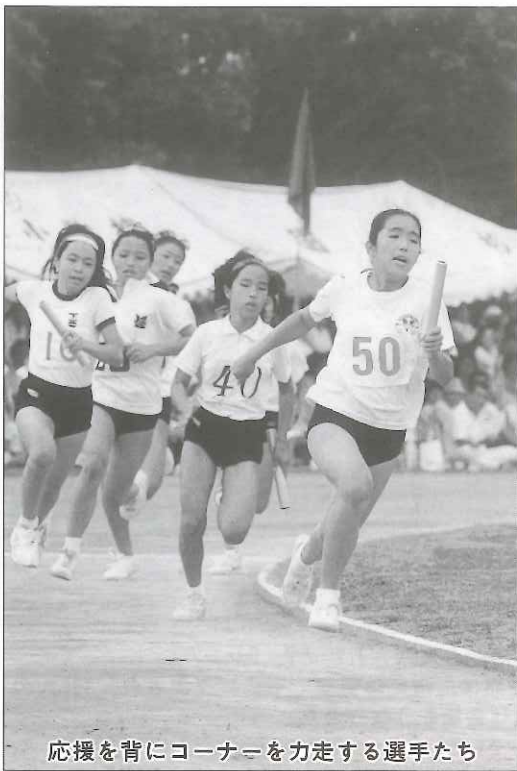
声援がなによりの励みです!!

第31回市民体育祭 個人・団体成績

《個人 の 部》

● 新記録

Aブロック1位		Bブロック1位	
小学生 100 m 走(男)	持田 浩(伊関)15秒5	浜田 竜宗(榕下)13秒5	
" (女)	徳本 藍(上西)16秒3	橋口まどか(現和)15秒6	
中学生 100 m 走(男)	持田 雄一(伊関)12秒4	今田 優(現和)12秒3	
" (女)	平原 幸子(安納)14秒4	中崎 愛子(国上)14秒8	
高校生 100 m 走(男)	金子 貴士(安納)12秒1	脇田 雄二(現和)11秒5	
" (女)	永田 裕美(伊関)15秒8	山口 奈美(下西)14秒3	
30歳未満 100 m 走(男)	潮上 盛人(古田)12秒7	引地 幸二(榕上)12秒2	
" (女)	萩原 幸子(中割)15秒4	芝 美鈴(国上)15秒2	
30歳代 100 m 走(男)	伊知地正徳(古田)12秒5	戸川 信正(国上)12秒4	
" (女)	古田 芳江(伊関)15秒3	木原 伸子(下西)14秒3	
40歳代 100 m 走(男)	吉田 智明(伊関)13秒1	河内 龍朗(榕下)12秒9	
50歳代 100 m 走(男)	榎本 勝司(安納)14秒3	砂坂 春義(榕下)13秒8	
中高一般 3,000 m 走(男)	①原口 洋志(古田)9分33秒3	②長瀬 一志(下西)9分33秒4	
" 走 高 跳(男)	①持田 雄一(伊関)1m76cm	②永田 和孝(伊関)1m65cm	
一般 砲 丸 投 げ(男)	①平山 武久(榕上)15m96cm	②萩原 実秋(国上)14m29cm	
一般ソフトボール投 げ(女)	①大田ほまれ(現和)37m35cm	②岩元 宮子(国上)34m47cm	



応援を背にコーナーを力走する選手たち



“晴れたらいいね”の曲によって婦人560人がマスゲーム

《団 体 の 部》

Aブロック1位		Bブロック1位	
小学生 400 m リレー (5・6年生男女)	伊関 1分04秒4	●榕上 59秒6	
中学女子 400 m リレー	古田 1分01秒0	国上 59秒4	
" 男子 800 m リレー	伊関 1分49秒1	現和 1分44秒4	
生涯リレー(1,030m)	伊関 2分45秒7	国上 2分35秒1	
総合女子 600 m リレー	安納 1分36秒9	下西 1分31秒5	
総合男子 1,000 m リレー	伊関 2分12秒4	榕下 2分09秒6	
運俵リレー(600m, 30kg)	安納 1分46秒8	●国上 1分45秒2	
輪 ま わ し(1,300m)	伊関 4分34秒9	●国上 4分18秒5	
む か で 競 争(500m)	●伊関 3分27秒6	国上 3分34秒6	
お 手 玉 入 れ	①古田170 ②伊関161	①国上166 ②下西140	
ボ ー ル は 踊 る	①伊関②安納③立山	①榕上 ②下西 ③現和	
職 域 リ レ ー (男)	①サッカーB 52秒8	②榕小A 53秒3	
" (女)	①フレンズ 1分03秒5	②市陸協 1分04秒1	



ダイナミックにつっ走る100m選手



アリモドキ防除だより ⑪

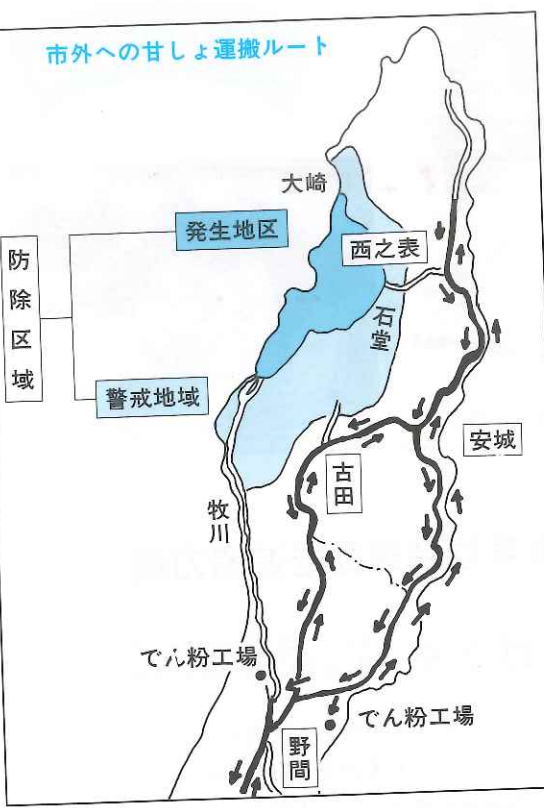
種子島の農業と経済に深刻な被害を及ぼすサツマイモの被害
虫アリモドキゾウムシをみんなの力で早期に根絶しよう!!

―甘しょの収穫・集出荷について―

アリモドキゾウムシの早期根絶及び拡散防止のため、くずいも・いもずるなどの処分を徹底するとともに、決められた運搬方法を守ってください。

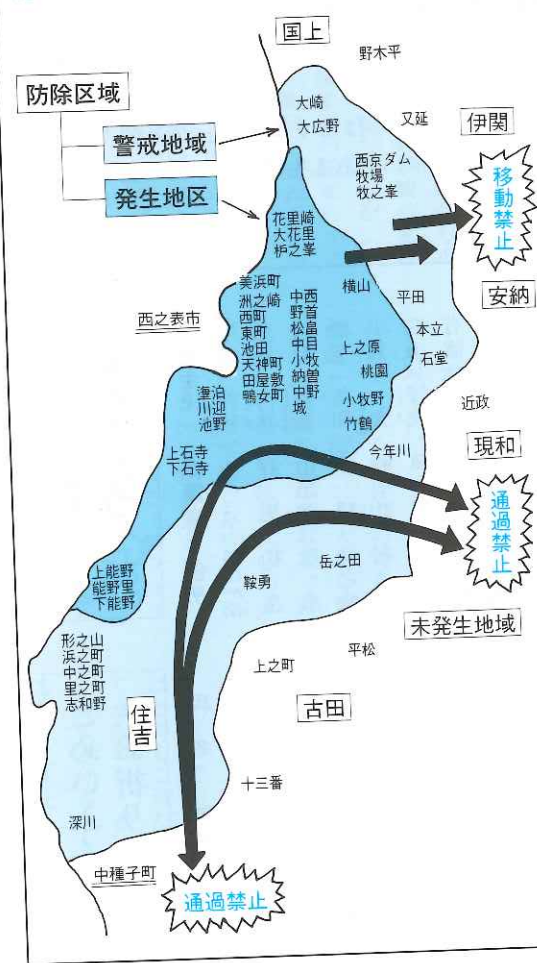
一、原料甘しょの集出荷・運搬

- (1) 西之表市の防除区域内（上西、榕城、下西、住吉の全



- 域)で生産された甘しょはその他の地区への移動が禁止されています。
- この地域のでん粉原料用甘しょは、すべて指定された容器(青線入りの袋)に入れ市農協でん粉工場に出荷してください。
- 甘しょ運搬後防除区域外に出る車は、荷台への殺虫剤散

甘しょなどの移動・通過ができない地域(集落名)



- 布をします。
- (3) 未発生地域でも、防除区域に近接した畑の甘しょは市農協工場に出荷してください。
- (防除区域に近い集落：国上、野木平、伊関又延、現和近政、古田平松・上之町・番屋峯、中割十三番)
- (4) 中種子町・南種子町の工場に出荷する甘しょは、すべてあらかじめ決められた運搬人を行います。個人出荷はしないでください。
- (5) 中種子町・南種子町の工場への運搬は、昨年と同じく往路・復路とも東海岸または中央線ルート(安城⇄古田⇄野間)を通るものとし、防除区

- 域は一切通過しないよう取り決められています。
- (6) 発生地区・警戒地域で甘しょの収穫・運搬作業に使ったトラクター等の農機具及び運搬車は、他の場所に移動する前に十分清掃してください。

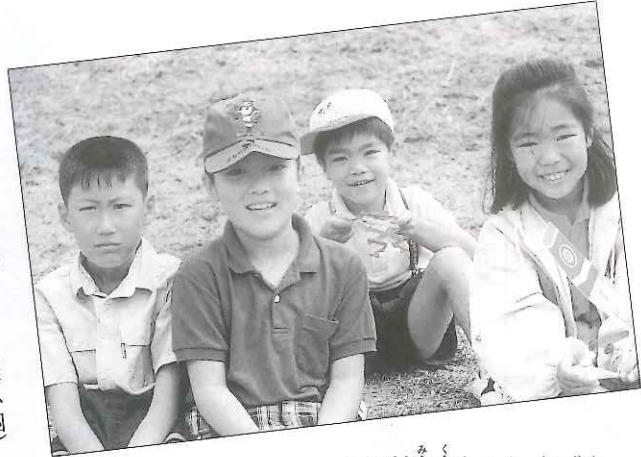
二、放置いも・くずいも、いもづるの処分

- (1) 畑周辺や野山等に放置・投棄されたくずいも・いもづるなどがアリモドキゾウムシの発生源になっています。これらの放置いもはすべて集落ぐるみで早急に処分してください。
- (2) 防除区域内で一斉に除去作業を行う場合は市役所に事前
- (3) 畑周辺や野山等に放置・投棄されたくずいも・いもづるは畑から他の場所に移動せず、その場で焼却または埋没処分してください。
- (3) 発生地区内では、甘しょ収穫後にトクチオン細粒剤を十ヶ所当たり六錠全面散布してください。

に連絡してください。防除員による指導及び地域により薬剤の提供をします。

(放置・投棄厳禁)

くずいもは、今年から島内すべて各でん粉工場で処分する事としましたので、各工場が指定する方法で出荷してください。



左から・川原亮くん（榕小四）
羽生隆一くん（榕小三）
羽生俊也くん（若宮五歳）
中村恵実ちゃん（榕小四）



西村未来ちゃん（1歳）
父：俊夫 母：トモ子（池野）

この人にSPOT

No.44

すこやか長寿社会運動推進協力員

木野 實さん（市および熊毛地区老人クラブ連合会会長
県老人クラブ連合会理事、桃園、77歳）



高齢化社会の到来に備え、すこやかで心豊かな長寿社会を建設するため、現在、県民運動として「すこやか長寿社会運動」が展開されています。その推進協力員を県社会福祉協議会長から委嘱された木野さん。

「地域づくりのリーダーとしての《人づくり》、高齢者が心豊かに生きる《生活づくり》、高齢者がたくましく生きる《地域づくり》、高齢者がすこやかに生きる《健康づくり》を目指して、市民一体となった運動を推進していきたい」と抱負を語る。

「おとしよりにやさしく、おとしよりはたくましく」が運動のテーマ。皆んなが健康でやすらぎと生きがいのある生活がおくれる長寿社会を実現したいものです。



豊島	岡村	荒河	矢野	田中	向江	長野	興松	小脇	吉田	春山	大脇	江口	折口	河本	有留	石山	小倉	松下	川野	黒岩	川地	出生児
美咲	美樹	由紀	実子	美里	真奈	加奈	あき	優希	優介	一也	啓吾	留香	雅央	彩香	蓮	智代	美和	智央	佑真	秀和	ひで	保護者
一也	正樹	孝幸	浩一	浩行	修	忠	茂	直正	正嗣	和敏	功成	雄大	好昭	和治	融	輝	敏弘	隆輝	由記	靜男	浩三	住所
川迎	池野	国上	松島	川島	松島	横山	鴨町	野首	松島	奥	野首	池野	庄浦	壺泊	東町	下石	東寺	洲崎	松島	朝日	朝日	住所



人口の動き（住民基本台帳）

平成5年10月1日現在（前月比）

総数	...	20,474人	(-11)
男	...	9,823人	(-1)
女	...	10,651人	(-10)
世帯数	...	7,871世帯	(±0)
市の面積	...	205.69km ²	

うぶごえ・ごめいふくは
九月中の受付分です。

江口	羽生	長野	鎌田	田上	岩下	小川	原田	落合	花木	江口	濱添	今井	氏名
政香	九三	ヒナ	ノリエ	納	義春	政義	種雄	エキ	新七	常夫	貢	ツ子	年齢
65歳	89歳	88歳	77歳	61歳	67歳	85歳	70歳	81歳	77歳	44歳	78歳	88歳	住所
川氏	堤和上之町	深川	下郷	形之山	東町	安城下之町	美浜町	上之原町	庄司浦	古田上之町	池田	桜園	

ごめいふくを
お祈りします

ふるさとを想う 39



牧内整骨院院長

牧内 興 吉さん(60歳)

(現住所: 〒179
東京都練馬区北町1-1-18)
電話: 03-3931-1050

(出身地) 現和浅川

昭和27年: 県立種子島農業高校卒業
〃 自衛隊練馬駐屯地医務室勤務
31年: 東京柔道整復専門学校卒業
〃 金井整形外科に入室
34年: 現在地に整骨院開業
36年: 牧内整骨医学研究会会長
43年: 大東医学技術専門学校講師
58年: 同校教務主任
平成3年: 日本接骨医学会会長(中国整形
外科医学会で講演)、金井整
形外科金井会名誉会長

アイマキラの端から浅川を通り、風本の浜、田之脇へ抜ける海岸線の美しさを、私は一幅の風景画として心の中に収めている。松の緑と白く輝く砂浜、そこに寄せては返さずさざ波。十八歳の三月まで、私はこの風景の中で成長した。アイマキラから浅川の集落寄りにあるサンゴ礁は、私に瀬釣りを楽しませてくれたし、その沖合いは、国上から増田に至る東海岸のフナトウたちの豊かな漁場でもあった。アイマキラは現和浅川と安城平山を境とする突端を浅川から見た呼称だが、平山の人たちは何と呼んでいるのだからか。マキと言うからには、

大昔、ここは牧場だったのかもしれない。すると、自分の牧内とはどんな関係があるのだろうか、といつも考える。いずれにしても、このアイマキラは、私にとって不思議な魅力をもち、安らぎとロマンを与えてくれる。

昭和二十七年三月、高校卒業と同時に種子島を出発。夜の十時に西之表桟橋から船が出るまで、別れを惜しむ親兄弟、特に母の涙声に後髪を引かれる思いだったこと、海からの寒風が肌にしみたことが、今でも鮮やかに思い出される。しかし、あの時の母はとっくにこの世にいない。父は八十六歳で健在だが、本年七月、

体調をくずして井元医院に入院した。すぐ見舞いに駆けつけた直後の八月、鹿児島市の城山観光ホテルで九州プロックの学会があり、そのついでに、また種子島に渡った。何回も帰省しているし、いつ帰っても西之表桟橋から市内の様子、島内の景観の変貌ぶりに驚嘆させられるが、今回は特に海岸線の様変わり「アバヨ、浜ががあんなくなつてしまつたけりやあ」と驚く始末であった。次々に襲ってくる台風で、特に今年は十三号が猛威をふるった直後なのでこんなにも変わり果てた姿になったのだろうか。昔の、あの白く輝いていた砂や松の

緑は、どこへ行ったのであるうか、と大小とりどりの岩石がむき出しになっている現状と、私の心の中に収めている昔の風景とを重ね合わせてみることであった。

市街区や村落、周辺の様相がどんなに変わっても、アイマキラの端からサンゴ礁にかけての一带の風景が昔ながらのおもかげを残しているのは何よりもうれしい。うれしいにつけ、悲しいにつけ、私はここに向かって呼びかけたり涙を流したり、少年の日の心の拠り所としたものである。アイマキラへの郷愁、それは私の中にいつも渦巻いている望郷の思いでもあるわけだが、アイマキラは私の「心のふるさと」とでも言ったらよいだろうか。

いま、私の整骨院の待合室に縦一、横二の大きな額に収めた風景写真がある。言うまでもなく、私の「心のふるさと」の写真であり、これと同じものを院長室と自宅の応接間にも掲げて、朝夕語りかけ、あるいは手を合わせて「ふるさと」の発展を祈願することもある。

「ふるさとを想う」気持ちとはとてもこれだけでは言い尽くせないが、西之表市の発展を祈り続けることによって、これに代えよう。

次回「ふるさとを想う」は茨城県北相馬郡にお住まいの富永道子さん(住吉中之町出身・旧姓・平山)にご登場いただく予定です。お楽しみに。

太平洋をまたいだ虹③

郷土史家・平山武章さん

米国の石油運搬船カシミア号が明治十八年（一八八五）に種子島沖で嵐にあい遭難。九死に一生をえて種子島に漂着した乗組員と安城、立山、伊関の皆さんとの温かい交流の様相を綴る。今回は、その三回目。

昭和三十八年（一九六三）八月、米国コロンビア大学の名誉教授（中国語課）グットリッチ氏が夫人と共に来島された。目的は甘藷の原々種調査であったが、植物学的には、その探索は困難だったよ

うだ。その案内役になった私は、此のカシミア号の遭難について話をした。通訳の一語一語に肯きながら、教授は是非その記念の地、記念碑を見たいとのことだった。私は石寺からすぐ伊関へと車を走ら

せた。

夫妻は深い感動と興味をもって英文の碑文を読み、帰国したらずぐ国会図書館の資料により調べてみたいとのことだった。

翌年、教授は「太平洋歴史評論」誌にその結果を発表され、西之表市教育委員会は市立図書館から、資料として発行した。訳は鹿大教授の増村宏氏である。

これが戦後に於ける、敵国だった日本の再認識に、微妙に、しかも大きく作用したことは否めない。

さて、カシミア号の遭難者達が、種子島で甘藷を珍らしそうに、しかし美旨そうに食べたことは記録の通りだが、メキシコ原産といわれる此の諸が、隣国のアメリカではさして好まれていたと言えないようだ。どうしてこれが太平洋を渡って中国に入り、更に琉球そして種子島に導入され

たのか、グットリッチ博士の、甘藷の原々種調査の夢もわかるような気がする。

ところで同博士は、帰国するやすぐに米国会図書館で、当時の資料を確認して、カシミア号に関する国会の昂奮を、そのままの文で報告して居られるのである。文は増村宏氏訳文。

「わが国の難破船員は世界のあちらの方面では、必ずしもあれほど幸運というわけにはいかなかった。日本人は従来困っている者に対しては、同情する必要があるれば、いつでもそうしないことはなかつ

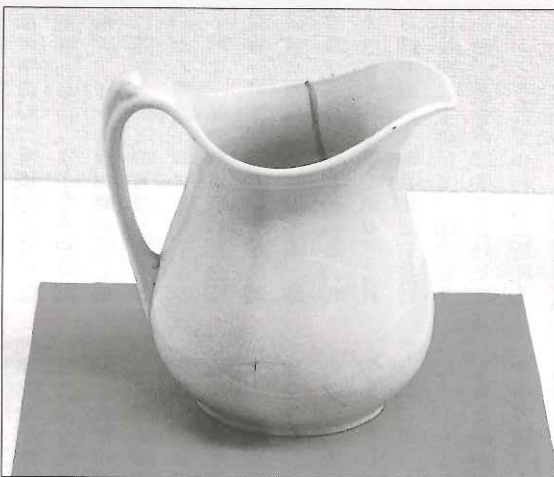
たが、その親切な心づかいにはアジアの沿岸地方の他の多くの住民の野蛮な行爲とは著しい対照をなすものである。わが難破船員がこのうえない残酷な非人道的な待遇を受けた事例がいくつか報告されている。そこでわが政府の権力がそのような非人道行為を処罰する為に発動されてきたのである」。

此の文からは我が島民の善隣愛は畏敬の念で見られたようである。

立山校区では、これを記念する歌が歌い継がれているが、全歌詞を紹介したいと思う。



金メダル（アメリカ合衆国大統領より岩坪兵左衛門へ贈られたもの。直径3.6cm、重量32.2g。米国議会は日本人の心温まる救助活動に対して、この金メダルと金5000ドルを贈った。）——現在、種子島安城奨学会が種子島開発総合センターに出品展示。



水差し（カシミア号乗組員から鎌倉平兵衛に贈られた。伊関に上陸したイカダの5人組が、真水のかわりに食酢を入れ、漂流中にのどの渇きをしのいだもの。高さ25cm。）——現在、鎌倉平吉さんが種子島開発総合センターに出品展示。

米国商船「カシミール号」の歌

作詞・作曲 町 末 義

一 「カシミール号」の遭難

舞床浜の磯づたい
鳴く音は淡し浜千鳥
男波 女波の添い寄せ
なぎさの石碑 永遠に
語り伝えよ未までも
アメリカの商船カシミール号

二

遭難事件の物語
人世の情の語り草
時は明治十八年
九月も半ばの台風期
名月今宵も白々と
太平洋を照り渡す
石油を積んだカシミール号
豪州港を船出して
洋上はるばるの横浜へ

三

急ぐ船路に波高し
折しも起くる台風
船は次第に動揺す
俄に襲う風嵐
激浪たちまち天をつく
哀れ木の葉のカシミール号
闇なす潮路に流される
十幾余名の乗組員

四

六

七 必死になつて尽くせども
吹き巻く風にマスト折れ
逆巻く浪に舵砕け
運命ここに尽き果てて
はるか故国を伏し拝む
はるかに望む島の影
命を波間にまかせつつ
母船を離れるヒナポート
島をたよりにこぎいだす
ポートは波間に浮き沈み
嵐は小舟を吹き回す
救いを求める術もなく
ゆくえ知らずに流される
暁 迫る太平洋
いつしか嵐も息絶える
波は次第に打ちなきて
ポートは島へとたどりつく

二 情の島の種子島
誉も多きその中に
今にも名高き里がある
そこは立山 衆の村
嵐は屈きて秋日和
いつもの周吾ばあさんは

三 みなを拾いにいそいそと
出かける大田所鼻の下
これはこれは何者か
ポートが磯辺に打ち寄せて
身の丈六尺赤毛の裸
青目の鬼と腰抜かす
腰を抜かれちゃ上られぬ
心急いでじたばたと
息切れかけ込む走り込む
所は立山小学校
周吾ばあさんこれ何事ぞ
落ちつけ急くなよく語れ
河内校長がせき立てて
事の次第をきき給う

四 遠見
山蔭深き早稲田川
流れ尽きせぬ清水の
浜の測かげに異国人
いまわの力もつき果てて
水に潮波流しつづ
涙にくれる磯千鳥

五 救護
ここに出るのが岩坪兵左衛門
村の役所の世話やき様よ
チャンチャカ チャンチャカ
チャンチャカ チャン
次に出るのが英蔵校長

三 学者通訳で事なく正す
ここに乗り出す背低い人は
支那の通訳商人でござる
ここは何処よと漢字でき
かる

四 ここは大隅 種子島 立山
そちはどこよと尋ねて聞
けば
こちはアメリカ商人組よ
分かる話に皆ほえみぬ
人の情は乾路に慈雨よ
この衆たち米助・新助
勝次郎たち かやの準備
老いも若きも子供も妻も
手足抱えて連れ申す屋敷
ここは兵左の仮病院よ
妻のケサ女が婦長さんで
ござる

五 若いお医者さんは長男の
兵八よ
妻のスマさんが看護婦で
看病

六 朝はおかゆで タベは
肉よ

七 屋は海山 さかなにお酒
十二 村の情は海山越えて
愛と情で夜を日に尽くす
十三 ここに嵐も事なく忘れ
のどかな日和に喜び遊ぶ
十四 やがてかけて着く郡長牧
野
区長の榎元忠兵衛殿よ

十五 事の伝説で長崎領事館
帰国の報に手をあげ喜び

五 別離
情は海をはるばる越えて
見知らぬ他国の隅までも
届いて今日こそ別れゆく
握手は涙の袖の露
二 馬に跨がり手づなとり
芦野の広野をスタスタと
名残りどどめて振り返る
さらば 日本の立山区

六 慕情
御無事のご帰国早かれと
祈る思いの袖のつゆ
湧き出づる うれし涙声
共々に傷む人の情
浜の石碑の朽ちるまで
慕情は永久に寄する波

ハ資料V
郷土（立山）先人の美徳を
讃える「カシミール号遭難・
漂着の歌」
昭和六十年二月 立山小学校

九州農試が一般公開

11月12日(金)午前10時～午後4時

- 世界のさとうきびの品種を写真パネルで紹介。
- さとうきびの栽培技術、作業機もご覧ください。
- 黒砂糖、ジュースもどうぞ味わって!!

〔問い合わせ先〕九州農業試験場種子島試験地 ☎ 0100 (安納大平)

税を知る週間

11月11日から17日までは「税を知る週間」です。

税金は、私たち国民が豊かで安定した暮らしができるように、国や地方公共団体が活動するための大切な財源です。

「税を知る週間」は、国民生活に深いかかわりを持っている税について、その仕組みや使われ方などを正しく理解していただくために設けられているものです。

今年の「税を知る週間」は「この社会あなたの税がいきている」をスローガンとして、特に「暮らしを支える税」をテーマに、各種の行事を全国的に幅広く行うことにしています。

この機会に、家庭や職場などで、税について話し合ってみてはいかがでしょうか。

第45回 人権週間

「世界人権宣言」は、昭和23年12月10日に国連で採択されましたが、これを記念して

国際連合では12月10日を「人権デー」と定め、すべての加盟国に対し、人権思想の啓発のための行事を毎年実施するよう要請しています。

そこで、法務省と全国人権擁護委員連合会では、12月4日から一週間を人権週間と定め、広く国民に呼びかけ人権意識の普及高揚をはかっています。

人権週間を迎えるにあたって、もう一度、憲法に定める基本的な人権尊重の精神を十分かみしめて、これを社会に反映してゆきたいものです。

本市では次の5名の方々が人権擁護委員として活動されています。——敬称略——

《人権擁護委員の紹介》

- 荒木政雄(中目②1525)
- 長野 昭(住吉中③8264)
- 木原節郎(武部⑤0040)
- 江口スワ子(野木平⑧1188)
- 榎本和枝(中野②1417)

養護学校への体験入学

県立中種子養護学校で12月10日(金)、体験入学が行われますが、現在、その参加者を募集しています。

同校では、精神発達に遅れのみられる子供さんを対象に深い愛情と理解をもって、子供一人ひとりに適した教育を行い、さまざまな障害を克服して学校・家庭・地域社会での生活に適應できる、たくましい子供を育てることに努力しています。

そこで、同校では、毎年、心身に障害をもつと思われる幼児や小学生、中学生と保護者の方々を対象に次の体験入学を行い、養護学校の教育に対する理解を深めていただいています。

学校や幼稚園、保育所の先生方もお気軽に「学校参観」「教育相談」にご参加ください(電話での申し込みもできます)。

- ▼日時：平成5年12月10日(金)、午前9時～午後3時
- ▼主要内容：学習参観、学校見学、合同給食、教育相談
- ▼申し込み先：県立中種子養護学校体験入学係 ☎ 2818

福祉機器を展示紹介

福祉機器展示会が次の日程で行われます。

ねたきりなどで介護の必要なお年寄りや身体の不自由な方々の自立を助け、またお世話する方々の負担を軽減するための福祉機器を展示紹介します。福祉機器の利用等についてもお気軽にお尋ねください。

- ▼日時：11月14日(日)、午前9時半～午後4時
- ▼場所：市老人福祉センター(桜が丘)
- ▼問い合わせ先：市社会福祉協議会 ☎ 0506

郵便窓口が土曜休業

速達はこれまでどおり

市内の集配郵便局(国上局、古田局、種子島局)では、これまで郵便窓口だけは土曜日にも開業していましたが、今年9月からは、毎週土曜日の郵便窓口も休業となりました。

ただし、速達郵便物については、これまでどおり取り扱っています。

詳しくは、郵便局の窓口でお尋ねください。

▼問い合わせ先：種子島郵便局総務課 ☎ 0411

あったかいね。うれしいね。「おめでとう」が届きます。

11月1日(月)発売お年玉つき年賀はがき

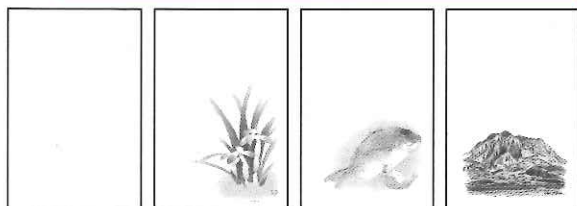
○年賀はがきは最寄りの郵便局または郵便切手類販売所でお買い求めください。

ゆうパック

年末は小包の取り扱いが増加しますので、お歳暮はお早目にご準備ください。

年賀状

12月24日ごろまでにお出しください。



①無地 41円 ②春蘭 46円 ③海幸 46円 ④初春の桜島 46円

お正月



9月の青果市況

種子島公設地方卸売市場

入荷量 142.5トン		島内産 17.9トン (12.5%) 島外産124.6トン (87.5%)		
取引額 4,009万円		島内産 719万円 (17.9%) 島外産3,290万円 (82.1%)		
種	類	入荷量トン	取引額千円	単価円/kg
島内産野菜類	根菜類	1.0	330	333
	葉茎菜類	3.0	2,511	829
	果菜類	1.5	430	289
	その他	10.0	1,986	199
	小計	15.5	5,257	340
島内果産実類	ぶどう	0.1	47	389
	バナナ	0.1	19	242
	その他	—	39	830
	小計	0.2	105	427
島内産花類・鶏卵・加工品・その他		2.1	1,826	855

◎9月の特徴…昨年同月に比べて、島内産は入荷量で4割減と大変低い水準であった。

◎野菜、果物、花類の出荷をご希望の方は種子島公設地方卸売市場(天神町②0216)をご利用下さい。

新着図書

市立図書館
☎②1111 内線274

- 太平洋戦争軍艦戦記 鈴木 亨
- 季節の事典 大後 美保
- 一家 ランラン 山田 邦子
- 悩みはイバラのようにふりそそぐ
なだ いなだ
- 百人一語 梅原 猛
- みんな自分がわからない ビートたけし
- 情報将校の先駆 福島安正 豊田 稔
- 薩摩士風沿革 坂本鈺之助 編

鉄砲館だより

種子島開発総合センター
☎③215(ミンナミニコ)

※総合センター内の市民作品展示コーナーは入場無料です。お気軽に入館、ご鑑賞ください。

※11月の展示

- ポルトガル児童画展 10/10～11/30
- 「税を知る週間」作文展 11/11～11/17
- 秋の山野草木展 11/26～12/5

平成5年		休日在宅医		休日営業スタンド			
11月3日 文化の日(水)	田上病院 松 島②0960			三栄石油商会 天神町②1251	市農協第2 石 堂②1291	内門商店 沖ヶ浜田②0291	向江商店 安 納②1147
7日 (日)	池田医院 天神町②0260			種子島石油 鴨女町②1347	鯨島石油店 現 和②0005		
14日 (日)	多愛病院 中 目③2401			市農協第3 松 島③0128	中村石油店 現 和②0021	江口石油店 国 上②0808	
21日 (日)	中目医院 野 首③0350			有馬石油店 西 町②0121	瀬下石油店 住 吉③3836	川添商店 現 和②0810	水口石油店 国 上②0007
23日 勤労感謝の日(火)	松崎医院 西 町③2455	城西医院 中目②0243		種子島石油 東 町②1345	徳永石油店 安 城③7379	一口石油店 安 納②1111	
28日 (日)	井元医院 東 町②0075			三栄石油商会 天神町②1251	市農協第2 石 堂②1291	内門商店 沖ヶ浜田②0291	向江商店 安 納②1147
12月5日 (日)	田上病院 松 島②0960			種子島石油 鴨女町②1347	鯨島石油店 現 和②0005		
12日 (日)	池田医院 天神町②0260			市農協第1 川 迎②0543	中村石油店 現 和②0021	江口石油店 国 上②0808	
19日 (日)	多愛病院 中 目③2401			有馬石油店 西 町②0121	瀬下石油店 住 吉③3836	川添商店 現 和②0810	水口石油店 国 上②0007
23日 天皇誕生日(木)	中目医院 野 首③0350			種子島石油 東 町②1345	徳永石油店 安 城③7379	一口石油店 安 納②1111	
26日 (日)	松崎医院 西 町③2455	城西医院 中目②0243		全 店 営 業			



Portugal

ポルトガルへの

旅

(34)

ポルトガル紀行③

——文章——
橋原定男助役

日高節画伯の油絵や熊毛の児童生徒・一般の作品展示会場となったヴィラ・ド・ビスポ市庁舎二階で（後列中央がロドリゲス市長。写真向かってその左が在ポルトガル日本大使館の市岡大使）。



ここに陸つき
海はじまる岬

五月二十七日（木）、ポルトガルを縦断する国道を南へ南へ、三百五十キロ。左右の路肩には一メートルを越すエニシダ（金雀児：Genista・Hiniシダ）一条に続く叢にまばゆ

いばかりの黄金色を被っている。延々のコルク木立ち、延々のエニシダの黄、文字通り「夢の国道」が続く。

途中、用足のためレストラン風の所で一回停車した。なにしろ五時間を超す長い長いバスの旅、リスボンから乗り込んだ毛井あやみ通訳のなめらかなガイドを聞きながら、一行白呪術にとりつかれたよう

な雰囲気のまま、メルヘンのポルトガル路を、ひたすら南へ南へと急いだ。十三時十分、遂に丘の上の町ヴィラ・ド・ビスポ市を仰ぐことができた。

サグレスの岬と港を一望するレストランで昼食。御伽の国のレストランか。天井、壁、窓の飾りつけが、色とり

どりのビーズを散りばめた様だ。まばゆいほど華やかで隙間がない。本場のワインを片手にしながら、一行誰もが、しばしまどろむ気分に入る。

午後二時きっかり、ヴィラ・ド・ビスポ市庁舎訪問。市岡大使は先に着いておられた。

ロドリゲス市長の案内で、一行は庁舎二階へ上る。そこの大広間が日高節画伯の個展会場であり、地元の名士を含

めてセレモニーがはじまった。

ロドリゲス市長の歓迎の挨拶、市岡大使の祝辞、榎本市長のメッセ・ジロ上。種子島時邦氏挨拶。以上いずれも毛井通訳が、一節毎に丁寧に通訳。最後に節画伯の謝辞。これをフェルナンデス喜久江嬢が通訳。五名の挨拶は通訳づきのため、式典は一時間を超えた。

はるばると持参した御土産の種子鉄七丁をロドリゲス市長に贈る。リスボン副市長やポルトガル発見国家委員会のブリット副委員長に説明したように述べると、ロドリゲス市長も感無量の面持で握手され、しばらくその手を離されなかった。

ロドリゲス市長から西之表市に対し、陶器の皿（直径四十センチ）と、大航海時代から今に伝わるロープの結び方（額入りサンブル）などが贈られ、ツアー一人一人に十六世紀大航海時代の世界地図や観光写真などが手渡された。

ひとまずセレモニーを終え一階玄関へ移り、ロビーでワインパーティーがはじまる。双方七十名ほど。パーティー

合間に記念のパチリが重なる。パーティーの後、中学校における熊毛美展、種子島児童画展を観賞。人懐っこい子供たちを中にはさんで、パチリパチリが続く。

午後八時から（と言っても外はまだ昼のように明るい）ロドリゲス市長主催のレセプションが、サグレス岬の付け根にある国営レストランで開かれる。相集う人々ビスポ市三十人ほど、我が方は日高節画伯夫妻をはじめ三十人ほど。心を込めたポルトガル料理はツアーの口に合ったように、特に焼魚類は、郷愁をさそうものが多かった。

調理を勉強中の学生がウェイターの役目で、終始笑顔でサービスにつとめた。

晚餐中は、通訳を通したり、絵をかいいたり、身ぶり手ぶりやらで結構長い時間が過ぎた。家族団欒のような談笑にビスポ市の方々の暖かい琴線の音が沁む宴であった。ホテルに帰っても、なかなか寝つかれなかった。合部屋の村重昭君（西町）もしきりに寝がえりをくりかえしていたようだ。

（橋原）